

# 病院事業会計

## 1 概 況

### (1) 総括事項

令和5年5月8日から新型コロナウイルスは感染症法上の位置づけが5類に移行されました。蒲郡市民病院においては、同年9月末までは4階東病棟を専用病床として運用し、10月以降は各病棟で感染対策を徹底して新型コロナウイルス感染症に罹患された患者さん（以下「コロナ患者」という。）を受け入れました。地域包括ケア病棟の2病棟での運用も再開し、通常医療と両立しながら地域の基幹病院としての責任を果たしてまいりました。

また、令和5年7月に、市民の安全・安心をより強固にし、医療圏域外搬送における活動拠点、医療圏域内での災害派遣医療チーム(DMAT)の拠点として医療体制の強化に貢献するために災害拠点病院の指定を申請し、令和6年4月1日に県より指定をいただきました。

診療の状況につきましては、入院患者延数は106,904人（対前年度比4,263人増）、病床稼働率は76.5%（対前年度比2.9%増）となりました。外来については、コロナ禍での受診控えの状況から全体的に患者の戻りは鈍くなっており、外来患者延数は150,480人（対前年度比1,697人減）となりました。

経営の状況ですが、収益的収支では、入院収益、外来収益ともに増加しましたが、国、県からの新型コロナウイルス感染症対策関連補助金が大きく減少しました。支出では、アブレーションなど高度医療の実施、原油価格の高騰や急激な円安、インフレ等の影響により材料費が大きく増加しました。また、人事院勧告を受けての給与引き上げ、医師以外の職員に対しての地域手当の支給などにより職員給与費も増加しました。病院事業収益は9,712,522,694円（対前年度比387,018,347円減、3.8%減）、病院事業費用は10,091,632,527円（対前年度比469,554,897円増、4.9%増）となり、収支差引379,109,833円の純損失を計上し、平成30年度以来の赤字決算となりました。

資本的収支では、全身がん検査などにも活用できる3.0テスラのMRIを導入しました。今後も診療内容を充実させ、高度な医療の提供体制を整えながら、幅広い医療の需要に応えるため、必要な機器の整備に取り組んでまいります。

なお、新棟等整備については、実施設計技術協力業務委託に係る公募型プロポーザルが不調となり、計画の一部見直しを行っております。今後は、前倒しが可能かつ必要な整備及び改修を先行して進めることにより、新棟建設の延伸による影響を最小限にとどめ、病院全体の機能強化にしっかりと取り組んでまいります。

以上が令和5年度の事業概要であります。今後も蒲郡市民病院は、救急医療を中心とした二次医療の基幹病院として市民の命・健康を守る役割を担い、市の健康行政への貢献や研修医確保・教育についても更に努力を重ねるとともに、経営の健全化に努めてまいります。

## (2) 経営指標に関する事項

令和5年度決算において、医業費用、医業外費用に対する医業収益、医業外収益の割合を表し、病院活動による収益状況を示す経常収支比率は、前年度比8.8%減の96.2%となりました。医業収益は増加したものの、新型コロナウイルス感染症対策関連補助金が減少し、材料費や職員給与費といった費用の増加が医業収益の増加を上回ったことから、健全経営の水準とされる100%を下回る事となりました。今後は物価の上昇傾向が続き、材料費、経費が増加していくことが懸念されます。

病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す修正医業収支比率は、前年度比3.9%増の85.8%となりました。救急医療体制維持のために他会計より基準内の繰入金を受けていることから100%を下回っていますが、入院、外来ともに収益が増加したことで改善されました。今後も必要な繰入金を受け入れながら収益を増加させ、新型コロナウイルス感染症感染拡大前の令和元年度程度の水準を目指していきます。

年延病床数に対する年延入院患者数の割合を表す病床稼働率については、入院患者延数が増加したため76.5%となり、2.9%改善されています。コロナ禍においても、コロナ患者を受け入れながら急性期病棟で必要な入院加療、手術を行ったこと、また、診療科を増やすことで地域の基幹病院としての役割を果たしてきたことが患者数の増加に繋がりました。

これらの経営指標を改善するには、新規患者を確保して入院・外来収益の更なる増加を図る必要があります。寄附講座による医療の充実、診療体制の強みについての積極的なPRに取り組みます。費用に関しても、コスト削減意識を一層高めて事務を行い、優先順位をつけての機器や設備の計画的な更新を図ります。また、働き方改革を踏まえながら、医療スタッフの確保、育成を行うことで、診療体制の更なる強化と質の向上に努めてまいります。

### <経営指標の推移>

	R1	R2	R3	R4	R5
経常収支比率	106.0%	106.0%	113.4%	105.0%	96.2%
修正医業収支比率	94.8%	84.0%	84.0%	81.9%	85.8%
病床稼働率	81.6%	71.2%	73.1%	73.6%	76.5%